

# ライティング・フィードバックにおける 学習者の選好に関する追行研究<sup>(1)</sup>

石井雄隆

## 1. はじめに

ライティング指導における教師のフィードバックは、教室における指導において重要であるが、学習者の選好 (Learner Preferences) に大きく左右される。本研究では、日本人英語学習者のライティング・フィードバックにおける選好の質問紙調査について報告する。はじめに、日本におけるライティング指導とライティング・フィードバックの先行研究を概観し、ライティング・フィードバックにおける学習者の選好についての質問紙調査とその結果について報告する。

## 2. 先行研究

### 2.1 日本における英語ライティング指導の実態

はじめに、日本の英語ライティングの指導の実態について調査した宮田 (2002)、高田 (2004) を紹介する。宮田 (2002) は、300人の大学生に対して質問紙調査を行い、ライティング指導の実態調査を行った。その結果、高校の英語の授業で重点が置かれていた分野については、「文法」の35.2パーセント、「読む分野」の31.9パーセントに続き、「書く分野」は、13.7パーセントとなっていた。しかし、その「書く分野」の内訳は、「文型や表現の暗記・反復練習」と「和文英訳」が圧倒的に多く、「自由英作文」はわずか6パーセントとなっていた。このことから、高等学校における英語教育においては、リーディングと文法に焦点が当たっており、ライティングの指導は十分に行われていないのではないかと報告している。

高田 (2004) は、国内の大学 (短期大学は除く) 200校の教員を対象に質問紙調査を行った。この調査で報告されているのは、習得すべき英語の4技能の理想と現実のギャップである。その結果の中で注目したい点は、書くことが現実には5パーセントしか扱えていない一方で、理想的には、11.5パーセント程度は、ライティング指導を扱いたいという調査結果が出ている点である。

上記のように、高等学校、大学においてライティング指導は十分になされていないという先行研究が存在する。

### 2.2 教師のフィードバックに対する研究の背景

ライティング・フィードバックも、これまでにとくさんの研究が行われてきた。Biber, Nekrasova

and Horn (2011) は、これまでのライティング・フィードバックに関する研究のメタ分析を行い、2000年から2004年の期間にライティング・フィードバックに関する研究が約100件あり、一番多かったと報告している。これは、TruscottとFerrisによって行われたライティング・フィードバックの効果に関する論争が基になっていると考えられる。Truscott (1996, p. 327) は、「第二言語のライティングクラスにおける文法の誤り訂正は、やめられるべきだ」と強く主張した。このTruscottの議論に対して、Ferris (1999, p. 1) は、「時期尚早で、あまりにも強すぎる」と反論した。この議論を受けて、ライティング・フィードバックの研究は大幅に増加したと考えられる。しかし、学習者へのフィードバックの処遇が、ライティング能力にどのような影響を与えるかという研究は数多く存在する一方で、教師のフィードバックに対する学習者の選好についてはこれまでにあまり議論がなされていない。本研究では、学習者の選好について焦点を当てたい。

### 2.3 Leki (1991) の調査

Leki (1991) は、第二言語として英語を学ぶ学習者のライティング・フィードバックにおける選好を調査した。対象は、100人の大学一年生である。その結果、学習者はエラーに対する訂正を望んでおり、また教師のフィードバックを確認しているという報告をしている。教師は、こういった学習者心理を理解し、自ら効果的だと思うフィードバックをするべきだと結論づけた。

## 3. 研究方法

本研究では、日本人英語学習者のライティング・フィードバックにおける選好を調査するために、質問紙を用いた。項目1から9の言語能力及びこれまでに受けたライティングの授業に関しては、宮田(2002)に基づき、項目10から19のフィードバックの重要性についての学習者の態度及び学習者のライティング・フィードバックに対する選好は、Leki (1991) に基づいた。参加者は、101人の英語英文学を専門とする大学一年生である。この質問紙は、必修科目の作文演習という講義の参加者に対して行われた。

## 4. 結果

本節では、質問紙調査の結果<sup>(2)</sup>について報告する。はじめに、実験参加者の基本的な情報として、項目1と項目2で「卒業した高校」と「海外滞在経験」について調査したところ、ほぼ全ての学生が国内の高校を卒業しており、一年以上の海外滞在経験がある学生は、全体の内20パーセントであった。項目4「英語力の自己診断」については総合力及び書く力どちらも「あまりない」か「ふつう」と答えた学習者が大半であった。また項目6「英語自体の好み」については、半分以上の学生が、最初から好きであったと答えた。これは質問紙調査の対象者が、英語英文学を専門とする学生であったので、当然の結果と言える。「高校の英語の授業で重点が置かれていた分野」について調査した項目7は、リーディングと文法がほとんどで、ライティングは、13パーセントにとどまり、宮田(2002)

の調査結果とほぼ同一であった。

また、「高校の時のライティング授業で焦点が当てられていたもの」について調査した項目8の結果では、和文英訳と文型や表現の暗記・反復練習の2つが半数以上を占めており、「大学のライティングの授業で焦点を当ててほしいもの」を調査した項目9においては、自由英作文が半数以上を占めていた。このことから、日本人英語学習者は、高等学校までに自分で書いた作文に対するライティング・フィードバックというものをあまり経験していないということが考えられる。

次に、フィードバックの重要性についての学習者の態度の結果について報告する。「英作文の解答が先生から返ってきた時、もう一度作文を全て読み直すか」という項目10と「先生のコメントや訂正を注意深く読むか」という項目11に対し、参加者は、概ね肯定的な回答を示した。また、「英作文で誤りが少ないことはどれくらい重要だと思いますか」という項目12に対しても、学習者は肯定的であり、学習者は選好以前に、フィードバックを強く意識していることが示唆された。

また教師が、文法、スペリング、単語の選択の誤り及び内容の誤りなどにフィードバックすることの重要性について調査した項目13,14,15,18についても肯定的であった。最も結果が顕著であったアンケート項目17の「作文における構造の誤りの重要性」に関する主観的評価について示す。

この結果は、学習者が構造上の誤りは重要だと考えていることを示している。その理由として、学習者は、高等学校段階までにこうした作文の構成について学んでいないことが考えられる。それゆえ、項目17と同様に、句読法など英文の構成に大きく関係する項目16も同じような結果を示していた。

項目19では、6つのフィードバックの方法を見て、「もしあなたがこの先生の生徒だったらどう感じるか」ということについて調査した Leki (1991) の5段階の質問紙調査を日本語に翻訳したものをを用いて、結果を比較した。

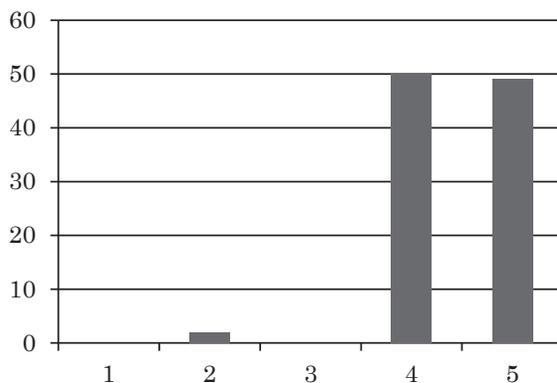


図1 項目17「英語の先生があなたの作文の構成の誤り（例えば接続詞の使い方の誤りや文章の前後のつながりの不自然さなど）を指摘することはどれくらい重要だと思いますか。」の調査結果

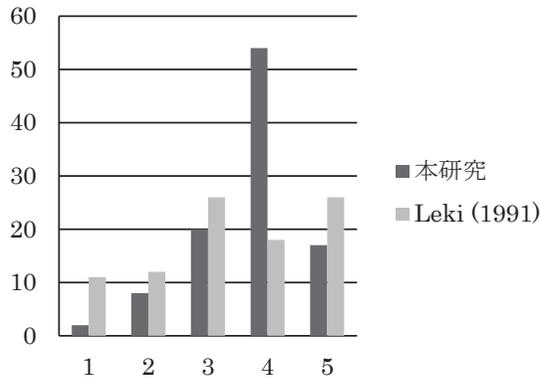


図2 項目 19-1「誤っている箇所を正しい形を明示して直すタイプのフィードバック」における本研究と Leki (1991) の結果の比較

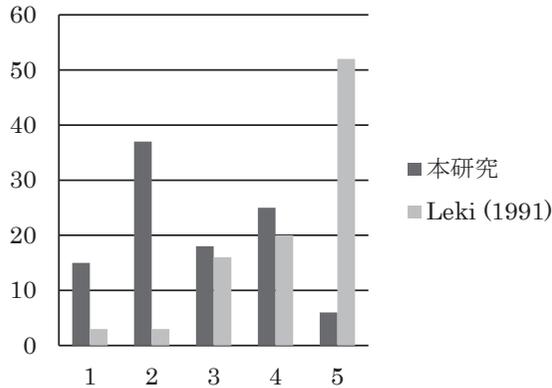


図3 項目 19-3「授業で使っている文法書のページ数を示すタイプのフィードバック」における本研究と Leki (1991) の結果の比較

図2は、日本人英語学習者と Leki (1991) による第二言語として英語を学んでいる学習者の直接的訂正の選好の結果を示したものである。その結果、多くの日本人英語学習者は、直接的訂正を好むということが示唆された。これは、学習環境が原因であると考えられる。宮田 (2002) の調査にもあるように、日本における英語教育では、文法に焦点が当てられている。そのため、日本人英語学習者は、文法に焦点を当てた明示的訂正を好むのではないかと考えられる。一方で、図3は、授業で使っている文法書のページ数を示すタイプのフィードバック、即ち間接的訂正の結果を示している。

図3が示すように、日本人英語学習者は、第二言語として英語を学んでいる学習者に比べて授業で使っている文法書のページ数を示すタイプの暗示的フィードバックは、好まないという結果になった。同様に、項目 19-2の「誤っている箇所を指摘し、誤りの種類を明示するタイプ」や項目 19-5「誤っ

ている箇所に下線のみを引く」タイプのフィードバックも日本人英語学習者は、肯定的ではなかった。

また項目 19-4「先生が決めたエラーを表す記号」や 19-6「誤りの箇所を指摘しない」に関しては、日本人英語学習者は肯定的ではなく、直接的な訂正を好むということが本調査結果から示唆された。

## 5. おわりに

質問紙調査の結果、日本人英語学習者は、直接的訂正を好むことが示唆された。この理由として考えられるのは、学習環境及び教室における処遇である。第二言語として英語を学ぶ学習者に比べて、日本人英語学習者は、直接的訂正を受けることが多く、それゆえ、学習者は、間接的訂正より、直接的訂正を好むのではないだろうか。

また本研究の問題点として、今回の調査に協力をしてくれた参加者は、大学で英語英文学を学ぶ学習者であった。それゆえ、習熟度<sup>(3)</sup>及び英語への関心は、基本的に高い学習者が多かったと考えられる。英語を専攻としない学習者や英語を得意としない学習者に対するさらなる研究が望まれる。

フィードバックの研究は、数多く行われている一方で、包括的なライティング・フィードバックに関する研究は行われていない。例えば、「ライティング能力の発達におけるフィードバックの長期的効果などが検討される必要がある」と Hyland and Hyland (2006, p. 96) は述べている。また、これまでのライティング研究の多くは、第二言語としての英語ライティングを対象としてきた (Ortega, 2009)。しかしながら、日本のように外国語として英語を学んでいる学習者のライティングは、言語環境、学習環境、教育方法など様々な点で、第二言語として英語を学んでいる国とは異なることが指摘されている (Yasuda, 2011)。そのため、日本の文脈を念頭に置いた、ライティング研究が今後も進められる必要がある。

また本調査は、語彙機能文法を応用した日本人英語学習者の文法的誤りの自動検出 (Ishii, 2013; 石井, 2014) 及び、現在行っている英語学習者の文法的誤りとエッセイ諸評価の関係に基づく自動採点システムの開発のための調査の一環として行った予備的調査であるが、学習者の選好に基づく自動フィードバックは、自動採点システムの開発やコンピュータ支援語学学習において、今後ともさらなる研究が望まれる分野である。

注(1) 本稿は、2011年に香港中文大学で行われた The 16th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics における口頭発表 A Survey of Learners' Preferences about Teacher's Feedback on Writing に加筆修正を加えたものである。

(2) 使用したアンケートとその全ての結果については附録を参照されたい。

(3) 項目 5 で TOEIC のスコアを報告してくれた実験協力者 18 名の平均点は、717.8 点であった。

## 参考文献

- Biber, D., Nekrasova, T., & Horn, B. (2011). *The Effectiveness of Feedback for L1-English and L2-Writing Development: A Meta-Analysis*. (ETS Research Report RR-11-05). Princeton, NJ: ETS.
- Ferris, D. (2004). The "grammar correction" debate in L2 writing: Where are we, and where do we go from here?

- (and what do we do in the meantime...?). *Journal of Second Language Writing* 13 (1), 49–62.
- Ferris, D. (1999). The case for grammar correction in L2 writing classes: a response to Truscott (1996). *Journal of Second Language Writing* 8 (1), 1–11.
- Hyland, K., & Hyland, F. (2006). Feedback on second language students' writing. *Language Teaching*, 39 (2), 83–101.
- 石井雄隆 (2014) 「語彙機能文法を応用した日本人英語学習者の文法的誤りの自動検出」『2013年度 ICT 授業実践報告書 (大学英語教育学会 JACET-ICT 調査研究特別委員会)』7–19.
- Ishii, Y. (2013). *An Application of Automated Grammatical Error Detection Based on Xerox Linguistic Environment for Basic Learners of English*. Unpublished M.A. Thesis.
- Ishii, Y. (2011). A Survey of Learners' Preferences about Teacher's Feedback on Writing. *Proceedings of the 16th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*. 403–409.
- Leki, I. (1991). The Preferences of ESL Students for Error Correction in College-level Writing Class. *Foreign Language Annals*, 24, 203–218.
- 宮田学 (2002) 『ここまで通じる日本人英語 新しいライティングのすすめ』大修館書店.
- Ortega, L. (2009). Studying writing across EFL contexts: Looking back and moving forward. In R. M. Manchón (Ed.), *Writing in foreign language contexts: Learning, teaching, and research* (pp. 232–255). Clevedon, UK: Multilingual Matters.
- 高田康成 (編) (2004) 『21世紀に相応しい大学英語像の創出と実現へ向けた意識調査<アンケート集計・中間報告>』(文部科学省「英語教育に関する研究事業計画」大学英語教育に関する学際的戦略研究会) 東京大学大学院総合文化研究科英語研究室.
- Truscott, J. (1996). The Case Against Grammar Correction in L2 Writing Classes. *Language Learning*, 46, 327–369.
- Yasuda, S. (2011). Genre-based tasks in foreign language writing: Developing writer's genre awareness, linguistic knowledge, and writing competence. *Journal of Second Language Writing*, 20, 111–133.

附録 本研究で使用したアンケートとその結果

<あなた自身について教えてください。>

1. 卒業した高校の種類を教えてください。

1. 国内の高校 (96)    2. 海外の高校 (5)

2. 一年以上、海外に滞在したことがありますか。

1. はい (20)    2. いいえ (81)

3. 2. で「はい」と答えた方は滞在国／地域と時期を教えてください。

(国 / 地域 :                      時期 :                      )

4. 現在のあなたの英語力について自己診断をして下さい。

(1) 英語の総合力を5段階で評価すると、どの位だと思いますか。

1 (全くない)	2 (あまりない)	3 (ふつう)	4 (ある)	5 (十分にある)
1	30	49	21	0

(2) 英語力の中で、書く力を5段階で評価すると、どの位だと思いますか。

1 (全くない)	2 (あまりない)	3 (ふつう)	4 (ある)	5 (十分にある)
5	40	43	12	1

5. 過去二年間以内に下記の試験を受けたことがある人はスコア、級を記入して下さい。

英検 (       ) 級

TOEIC (       ) 点

TOEFLiBT (       ) 点

その他の英語試験 (                      ) ・スコア / 級 (                      )

6. 高校時代、英語は好きでしたか。最も近いものを一つ選んでください。

1. 最初から好きだった。(59)

2. 最初好きだったが、途中から嫌いになった。(6)

3. 最初嫌いだったが、途中から好きになった。(16)

4. 最初から嫌いだった。(6)

5. 好きでも嫌いでもなかった。(14)

7. 高校の英語の授業では、次のどれに重点が置かれていましたか。その他を選んだ方は具体的に教えてください。（複数回答可）
1. リスニング（10人 / 4%）
  2. スピーキング（4人 / 2%）
  3. リーディング（89人 / 37%）
  4. ライティング（32人 / 13%）
  5. 文法（64人 / 27%）
  6. 語彙（36人 / 15%）
  7. その他（人 / 1%）
8. 高校の時のライティングの授業（またはそれに準ずるもの）では次のどれに重点が置かれていましたか。（複数回答可）
1. 和文英訳（35人 / 34%）
  2. 自由英作文（あるテーマが与えられ、そのテーマに対する自分の意見を制限語数内で作文する問題）（22人 / 14%）
  3. 文型や表現の暗記・反復練習（55人 / 35%）
  4. 書きかえ練習（17人 / 11%）
  5. その他（9人 / 6%）
9. 大学のライティングの授業では、次のどれに重点を置いてほしいですか。（複数回答可）
1. 和文英訳（46人 / 30%）
  2. 自由英作文（あるテーマが与えられ、そのテーマに対する自分の意見を制限語数内で作文する問題）（74人 / 49%）
  3. 文型や表現の暗記・反復練習（14人 / 9%）
  4. 書きかえ練習（8人 / 5%）
  5. その他（10人 / 7%）

<英作文のフィードバックについてのあなたの考えを教えてください。>

10. あなたは英作文の解答が先生から返ってきた時、もう一度作文を全て読み直しますか。

1 (全くしない)	2 (あまりしない)	3 (時々する)	4 (よくそうする)	5 (いつもそうする)
4	12	26	33	26

11. あなたは英作文の解答が先生から返ってきた時、先生のコメントや訂正を注意深く読みますか。

1 (全くしない)	2 (あまりしない)	3 (時々する)	4 (よくそうする)	5 (いつもそうする)
1	7	17	35	41

12. 英作文で誤りが少ないことはどれくらい重要だと思いますか。

1 (全く重要でない)	2 (あまり重要でない)	3 (どちらでもない)	4 (重要)	5 (とても重要)
1	10	22	46	22

13. 英語の先生があなたの文法的誤り（例えば、時制（**I go to the cinema yesterday.**）、主語と動詞の一致（**He eat breakfast.**）など）を指摘することはどれくらい重要だと思いますか。

1 (全く重要でない)	2 (あまり重要でない)	3 (どちらでもない)	4 (重要)	5 (とても重要)
0	7	8	55	31

14. 英語の先生があなたのスペリングの誤りを指摘することはどれくらい重要だと思いますか。

1 (全く重要でない)	2 (あまり重要でない)	3 (どちらでもない)	4 (重要)	5 (とても重要)
1	9	16	48	27

15. 英語の先生があなたの単語の選択の誤り（例えば薬を飲むは正しくは **take medicine** ですが、**drink medicine** と書いてしまうなど）を指摘することはどれくらい重要だと思いますか。

1 (全く重要でない)	2 (あまり重要でない)	3 (どちらでもない)	4 (重要)	5 (とても重要)
0	2	6	52	41

16. 英語の先生があなたの句読法（例えば、セミコロン（**;**）の後には文が来ますが、名詞だけを書いてしまうなど）を指摘することはどれくらい重要だと思いますか。

1 (全く重要でない)	2 (あまり重要でない)	3 (どちらでもない)	4 (重要)	5 (とても重要)
1	5	14	50	31

17. 英語の先生があなたの作文の構成の誤り（例えば接続詞の使い方の誤りや文章の前後のつながりの不自然さなど）を指摘することはどれくらい重要だと思いますか。

1 (全く重要でない)	2 (あまり重要でない)	3 (どちらでもない)	4 (重要)	5 (とても重要)
0	2	0	50	49

18. 英語の先生があなたの内容の誤り（例えば事実と異なることを書いているなど）を指摘することはどれくらい重要だと思いますか。

1 (全く重要でない)	2 (あまり重要でない)	3 (どちらでもない)	4 (重要)	5 (とても重要)
3	16	25	38	19

19. 以下の6つの文は全て同じ間違いをしています。先生は全て異なるフィードバックをしています。以下の6つのフィードバックを見て、もしあなたがこの先生の生徒だったらどう感じますか。とても良いと思ったら5を、全く良くないと思ったら1に○をつけて5段階で評価してください。

1. 誤っている箇所を正しい形を明示して直す。

(例) He go to the cinema.

→ goes

1 (全く良くない)	2 (あまり良くない)	3 (どちらでもない)	4 (良い)	5 (とても良い)
2	8	20	54	17

2. 誤っている箇所を指摘し、誤りの種類を明示する。

(例) He go to the cinema.

三人称単数現在形

1 (全く良くない)	2 (あまり良くない)	3 (どちらでもない)	4 (良い)	5 (とても良い)
4	39	22	31	5

3. 授業で使っている文法書のページ数を示す。

(例) He go to the cinema.

※文法書の121ページを参照

1 (全く良くない)	2 (あまり良くない)	3 (どちらでもない)	4 (良い)	5 (とても良い)
15	37	18	25	6

4. 先生が決めたエラーを表す記号、例えば誤り (Error) の中で12番目のものを指す時は以下のように記す。

(例) He go to the cinema.

E-12

1 (全く良くない)	2 (あまり良くない)	3 (どちらでもない)	4 (良い)	5 (とても良い)
33	51	11	5	1

5. 誤っている箇所の下線のみを引く。

(例) He go to the cinema.

1 (全く良くない)	2 (あまり良くない)	3 (どちらでもない)	4 (良い)	5 (とても良い)
15	28	23	28	7

6. 誤りの箇所を指摘しない。

(例) He go to the cinema.

1 (全く良くない)	2 (あまり良くない)	3 (どちらでもない)	4 (良い)	5 (とても良い)
73	17	4	5	2